

☆外務省☆

★基礎データ（TAC・W セミナー調べ）

採用者数

	31年度	30年度	29年度	28年度	27年度
採用人数	29	28	26	28	26
女性人数	12	9	7	10	5

今年度内定者の内訳

区分別

大卒程度					院卒
法律	経済	政治国際	教養	その他	
8	1	7	11	0	2

学歴別

大学院		
既卒	在学中	
0	3	
法科大学院	公共政策大学院	その他
0	3	0

大学					
既卒	在学中				
0	25				
法学部	教養学部	経済学部	医学部	国際関係学部	その他学部（文系）
13	6	3	1	1	4

大学別

（）内は大学院

東京大学	16(1)	一橋大学	1(1)
慶應義塾大学	6	早稲田大学	1
京都大学	1(1)	立命館大学	1
大阪大学	1	LSE	2

訪問者数

	1日目	2日目	3日目
第1クール	122	30	0
第2クール	82	?	0
第3クール	40	0	
第4クール	29		
第5クール	29		

★官庁訪問復元

内 定

【Aさん】

試験区分： 法律区分

受験状況： （初受験）

最終合格年： （2018年）

席次： （1～99）

事前の説明会参加回数： 約70回

訪問した省庁

	1日目	2日目	3日目
第1クール	外務省	財務省	経済産業省
第2クール	外務省	—	—
第3クール	外務省	—	—
第4クール	外務省	—	—
第5クール	外務省	—	—

1. 志望動機

外務省のエントリーシートに記入した志望動機と同文

「失われた20年」の最中に生まれ、幼い頃から厳しい時代の到来に備えるよう言われ育った私は、社会的環境の人々に与える影響力の大きさを感ずるとともに、自らの力でより良い未来を切り開きたいという思いを抱き続けてきた。以来、時事・社会問題に関心を有するに至り、文献、講義、私塾等を通じて見識を広める傍、国内各地・世界各国に足を運び、多様な人々・文化・価値観との関わり合いを通じて、構想力・想像力・コミュニケーション能力の増進に努めてきた。

一連の学生生活を通じ、日本は極東の島国でありながら、安全保障、政治、経済、文化、技術といった国の在り方は、有史以来、外国との関わり合いが大きく影響していることを痛感した。そして21世紀の日本の平和と繁栄、直面する困難、その解決の糸口は全て、外国との関わり合いによるものと感じている。

私は、そんな「外交」という世界に一度きりの人生を賭け、これからの日本が抱える苦難の最前線に立ち、より豊かで、より幸せに溢れ、より活気のある日本を実現するために、終わりのなき問いと困難に挑み続けていきたい。

2. 官庁訪問スケジュール

第1クール 1日目訪問

・7月4日(水) 8:30～24:20

・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 人事課	課長補佐	入口面談	5分
2回目	総合外交政策局 安全保障政策課	課長補佐	業務説明	60分
3回目	不明	不明	人事面接	15分
4回目	国際文化交流審議官 広報文化外交戦略課	課長	業務説明	60分
5回目	中東・アフリカ局 中東第一課	首席事務官	業務説明	60分
6回目	大臣官房 人事課	課長補佐	出口面談	20分

受付

外務省東口玄関受付に8:30集合。5分ほど前に到着すると、既に100名以上の訪問者が列を作っていた。エントリー番号の記された小さな紙を受け取り、持参したエントリーシートの右上に番号を記入する。20分ほど待たされた。

待合室（講堂）

定刻になると、エントリー番号1番から順に会議室へ案内される。ゲートを通り、エレベーターを上がり、会議室へ入ると、事務用の写真撮影が始まる。名前とエントリー番号の書かれたホワイトボードの前に着席し、三年目の職員に写真を撮影される。笑顔になるように、気を紛らわしていただ

る。その後 12 人掛けのテーブルに案内され、準備が整うまで待機。他の訪問者と雑談・情報交換、エントリーシートの見せ合いを行う。

入口面談

待合室に入って右側に設営されたブースにて行われる。5 つの仕切りに分かれており、指定されたブース番号の前に置かれた椅子に座る。本年度(2018 年)は、業務説明会に足繁く通い、評価が高かった訪問者の面談担当者は、揃って人事課の総合職採用担当であった。入口面談では、訪問者の関心分野、人柄に合わせた担当者を当てていただけることを告げられる。また、「勉強頑張ったね」と総合職試験の席次に関するコメントもあった。

業務説明(原課訪問)

「エントリー番号〇番、～さん。荷物を全て持って、こちらまで来てください。」というアナウンスによって、待合室の受付に呼ばれると、業務説明が始まる。業務説明担当者の課室・氏名、面会場所までの地図が記された A5 の紙を職員から渡され、自分で担当者のもとへ向かう。最初の担当者は、大学の先輩であった。エントリーシートを手渡し、簡単な挨拶と自己紹介、そして志望動機と関心事項を伝える。その後、担当者の経歴を伺い、その中からキーワードを拾い、時系列に沿って質問をしていく。入省直後の下積み、大学院留学、在外研修、帰国後の業務、出向時の役割。遠い過去の話に至っても明快な説明とエピソードがあり、純粋に楽しい時間となる。論理性、話術、頭の瞬発力に舌を巻いた。業務説明が終わると、「頑張ってるね。存分に官庁訪問を楽しんでこい！」との暖かい応援とともに、エレベーターホールまで送っていただいた。相手の目をしっかりと見つめ、固い握手を交わした後、待合室に戻った。

※ 人事面接では志望度や論理性・頭の瞬発力、業務説明では、外交官として不可欠な能力である、初対面の人間と会話する力・人当たりの良さ・第一印象、といった面を見られている気がした。

※ 上記と同じ手筈で、もう 2 名ほど業務説明をしていただいた。評価の高い人は、「課長・首席事務官・課長補佐」、そうでない人は、「首席事務官・課長補佐×2」「課長補佐一名のみ」といったパターンが存在した。

※ メモは取らない方が良い。人はメモを取られていることを意識すると、話の幅が狭まる。取るとすれば、話の見出し程度に収め、基本的には全て暗記する意識で、担当者の目を見て、話に集中した方が良い。業務説明が終了し、待合室に戻った後に、内容をメモに書き起こそう。

※ 好印象を与えるためには、的確に話の意図を汲み取り、的確な質問を行い、持論を展開することが重要となる。「原則論」「縦軸(時間軸)」「横軸(空間軸)」「裏(もし存在しなかったら)」を切り口に考えると良い。

※ 持参したノートの中に、言葉の接ぎ穂を失った際に対応するための、緊急質問集を挟んでおいた。「50 年後の日本がどう在れば幸福に感じるか」「外交官として結果を残す、というのはどういうことを意味するのか」といった、部署関係なしに質問できる文言をカンペとして入れておいた。実際、大いに役立った。

※ 待合室から面会場所までの移動中、スマートフォン等で「業務説明担当者名 部署」を Google 検索し、喫緊の活動記録、経歴等を頭に入れた方が、話がスムーズになる。勿論、担当者には検索したことは伝えず、相手の関心分野に寄り添い、より良い心証を持ってもらうためのツールにしよう。

人事面接

「エントリー番号〇番、～さん。エントリー番号△番、～さん。エントリー番号□番、～さん。荷物を全て持って、こちらまで来てください。」というアナウンスによって、複数名同時に受付に呼び出される。業務説明と同様、小さな案内図を手渡され、送り出される。中央玄関を通り、外務大臣と各国首脳の記念写真の脇に並べられた、番号の振られた椅子に座る。そこで 20 分ほど待たされる。面接室に入室すると、男性職員がパソコンを見つめていた。この方も自分とは変わらない一人の人間である。仮に熾烈な圧迫面接だったとしても、上司に命令されているだけで、きっと根は優しい温厚な方に違いない。そう自分に言い聞かせながら、一礼し、部屋の中央に置かれた椅子に座る。自分の場合は、事前評価が効いていたのか、圧迫面接ではなかった。「今日は何時に来ましたか?—大学生活で取り組んだことはなんですか?—外務省の所掌する業務で取り組みたいことは何ですか?」といった、オーソドックスな質問が続き、掴み所がわからなかった。あっという間に終了。

出口面談

人事課の総合職採用担当との面談。人事課としての本年度の訪問者の内情・感想等、雑談とともに、業務説明の感想を聞かれる。その後、「外務省として、～さんを極めて高く評価をしています」という文言とともに、第二クールの集合時間を伝えられた。また、二日目・三日目の訪問予定官庁を聞かれ、いくからには全力で内定を取る覚悟で臨むよう、発破をかけられた。

※ 評価としては、低い順から、「今年度、～さんを採用することを厳しい情勢です。」「順調です。」「高

第2編 官庁訪問体験記

く評価しています。」「極めて高く評価しています。」の順に評価が分かれていたとみられる。この時点で「極めて高く評価しています。」という評価でなかった人物で、内定を獲得した者はいないはず。

第2クール 1日目訪問

・7月9日(月) 9:00～23:30

・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 人事課	課長補佐	入口面談	5分
2回目	経済局 政策課	課長	業務説明	60分
3回目	不明	不明	人事面接	15分
4回目	総合外交政策局 海上安全保障政策室	室長	業務説明	60分
5回目	大臣官房 人事課	課長・企画官	人事面接	3分
6回目	大臣官房 人事課	課長補佐	出口面談	5分

第2クールまでの動き

採用担当から連絡あり。二日目・三日目で伝えられた評価、今の自分の心境を聞かれる。自分は、他省庁で言われた外務省批判を踏まえ、「国内政治」との関わりについて、深く話を伺いたいとリクエストを出した。

受付

外務省東口玄関受付に9:00集合。第一クールと同じ要領。80名ほどに訪問者が減る。

入口面談

第一クールと同じように、採用担当が担当者であった。「～さんなら、もっと良いパフォーマンスを発揮できるはず」、と発破をかけられる。また、課室長級に2名会わせる、と伝えられた。

業務説明

課室長級2名。第一クールと同じ要領でお話を伺う。

人事面接

第一クールとはタイプの異なる、情熱的な外務省員が採用担当。「人類最大の発明は、民主主義だと思います」という謎に思いついた迷言がヒットし、面接官の心を掴んだ気がした。

人事面接（二回目）

毎年恒例、2回目の人事面接。人事課長・首席事務官・精神科医の並ぶ部屋に案内され、志望動機を聞かれたのち、「極めて高く評価しています。安心してください。」と伝えられる。その後、別の待合室に案内される。

出口面談

採用担当との面談。繰り返し、「極めて高く評価しています。安心してください。」と伝えられる。同時に、「勉強するつもりで他省を回るので在れば、それは失礼にあたる。ぜひここで、人生を日本外交に捧げる覚悟を示してほしい。今が決めどきである。」と伝えられる。念のため、「本当に信用していいのですか?」「私の人生が決まりますが、よろしいのですか?」と念を押し、採用担当から「外務省創設以来、この評価を伝えたのち、裏切ったことは一度もない」との言質を得たので、「では、外務省に心を決め、明日以降は休ませていただきます。」と伝えた。

第3クール 1日目訪問

・7月12日(木) 9:00～19:30

・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 人事課	不明	入口面談	3分
2回目	中東アフリカ局 中東第二課	課長補佐	業務説明	60分
3回目	大臣官房 人事課	課長・企画官	集団討論	45分
4回目	国際法局 経済条約課	課長補佐	業務説明	60分
5回目	大臣官房 人事課	不明	出口面談	5分

第3クールまでの動き

採用担当から連絡あり。三日目の昼頃に連絡があり、今何しているかを聞かれた。「友人と昼から飲んでます!」と伝え、しばしの雑談。

受付

外務省東口玄関受付に 9:00 集合。第一クールと同じ要領。40 名ほどに訪問者が減る。

入口面談

第一クールとは異なり、若手の担当者。「評価は、第二クールでお伝えした通りです。なので、今日の集団討論では、ボーダーラインにいる訪問者を配慮して、あまり話しすぎないようにしてください。」と伝えられる。

※ ボーダーにいた訪問者は、「今日が頑張り時です」と伝えられていたそう。第2クールの出口面談では、「極めて高く評価しています。」と、「安心してください」がついていなかったという。

業務説明

骨太の補佐 2 名。第一クール・第二クールと同じ要領で進める。

集団討論

いつも通り、エントリー番号と名前を呼ばれると、準備室に案内される。準備室では、訪問者同士の会話と通信端末の使用を禁じられ、テーマ「次の G20 で外務大臣が打ち出すべきテーマ三つをあげよ」について、参考資料をもとに討論の準備をするよう伝えられる。時間になると、隣の部屋を移動し、人事課長・首席事務官・精神科医らの前で 30 分間討論。最後の持論をまとめる時間はない。

※ 内定確定組 4 名、ボーダー組 4 名の計 8 名で議論。自分は、終始左隣にいた訪問者の援護射撃に徹した。

※ 昨年度(2017 年)は、他者への配慮を伝えられた者はいない。一昨年度(2016 年)はあった。

待合室

集団討論が終わり、国際会議室に行くと、部屋には 30 名程度。訪問者が数名減り、部屋には残すところ 29 名となる。時間が経つと、採用担当が登壇し、「今、この部屋にいる方は、安心していただいて結構です。お疲れ様でした。」と、伝えられる。

出口面談

女性の担当者から、第4クールの集合時間を伝えられる。

第4クール 1日目訪問

・7月17日(火) 10:00~18:00

・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 人事課	官房長 課長・企画官	官房長面接	2分
2回目	大臣官房 人事課	課長補佐	昼食	60分

第4クールまでの動き

特になし。

官房長面接

例年とは異なり、第3クールの時点で内定者が確定していたため、形式的なものにとどまった。「大学時代、自分が最も輝いた時点を教えて下さい」「長所はなんですか」といった質問があったのみ。温厚な官房長。

昼食

職員一人と数名の内々定予定者ごとにグループ分けされ、食事会。自分は採用担当に連れられ、赤坂の定食屋に連れられる。猛暑の中、徒歩で向かったのは良い思い出。

自己紹介

国際会議室にて、一人一人、内々定予定者の自己紹介が始まる。20分準備時間を与えられ、順不同で一人3分間の自己紹介。

飲み会

自己紹介終了後、内定者 20 名程度で飯野ビルディング内の居酒屋で飲み会。

第5クール 1日目訪問

- ・7月18日(水) 10:00～18:00
- ・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 人事課	企画官・課長補佐	内々定言い渡し	2分

第5クールまでの動き

特になし。

内々定言い渡し

首席事務官より「今どんな気分ですか？」と聞かれ、「やっとスタートラインに立てたという気持ちです」と応じ、固い握手を交わす。

昼食

コンビニ飯の呪縛から放たれ、外務省内にある食堂で昼食。

研修言語説明会

30代前半の職員から、英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・ロシア語・アラビア語・朝鮮語、それぞれの魅力・特性に関する説明がなされる。個別の説明の後、テーブルごとに分かれ、質疑応答。その後、希望する言語を五つ志望順に記入し、志望動機を書き添える。

人事課長主催 懇親会

溜池山王のレストランで歓迎会。人事課長同席の懇親会。終了後、赤坂の居酒屋で二次会。その後、三次会。

3. 評価に占めるウエイト ※受験者の実感による

- ・業務説明会 : 40%
- ・人事課面接 : 40%
- ・業務説明 : 15%
- ・集団討論 : 3%
- ・待合室 : 2%

4. 省庁に関する感想、内々事情及び留意事項等

服装

就職活動に従事する学生は、基本黒無地のスーツを着用することと思うが、無地であれば紺色・チャコールグレーといった色のスーツを着用しても問題なし。自分が示したいキャラクター・人格に合わせましょう。

※ 私服指定の説明会では、素直に私服で行く方が良い。といっても、Tシャツといった非常識な服装は避け、せめて襟付きのシャツなどを着用して臨みましょう。

※ ジャケット・ネクタイは不要。ただしシャツは、無難に白を着用した方が良い。

エントリーシート

必ずしも手書きである必要はない。筆者はパソコンで文字を打ち込んだ。業務説明担当者、面接官が最も読みやすい形式で提出することを推奨。予めコピーを厚紙で取っておくと、エントリーシートが汚れなくて良い。

業務説明会・ワークショップ

採用や評価に関わりのない説明会・ワークショップ・インターンシップは、どの省庁・企業・組織にいても存在しないと思って良いでしょう。広報と同時に、予備選考を行なっていると考えるのが普通。気を引き締めて行こう。

お礼メールをこまめに送ること

業務説明担当者をはじめ、自分のために時間を取っていただいた方には、必ずお礼メールを送るよう。何を学んだか、いかに外務省に対する思いが強まったか等々、前向きな内容のメールを送る方が良い。そうした誠実さ・マメさは、外交官になってからも、ネットワーキングを行う上で重要な要素といえよう。また、入省後の関係構築も考え、内々定獲得後、官庁訪問中にお会いした官僚は、他省庁を含め、送付すると良い。

食事

毎食コンビニ。開封後、すぐに業務説明・人事面接に呼ばれる可能性があるのも、おにぎりやサンドイッチ等、食べかけでも仕舞うことのできるものがよい。また、突然お腹が空くこともあるので、クッキーやソイジョイなどを鞆に入れておくと安心感がある。また、待合室には、飲み物・お菓子・

栄養ドリンク等が、職員のカンパで用意していただいている。

5. 総論

(1) その省の攻略法, ワンポイントアドバイス

外交に対する情熱

外務省は、一貫して「情熱」を重視している。特に、外交官試験時代に入省した職員は、極めて「情熱」を重視している。なぜ日本のために一度きりの人生を捧げたいのか、なぜ外交をやりたいのか、外交を通じ日本をどうしたいのか、といった想いを、原体験と交えながら論理的に話す用意をする必要あり。情熱さえあればどうにでもなる、というスタンス。こうした情熱は、人事面接のみならず、説明会への参加頻度、質問の量・質、ワークショップでの貢献度、といったもので証明することができる。

自分は「何卒」なのか意識する

外務省に限らず、あらゆる省庁・企業・組織は、様々なタイプの学生を採用することを心がけている。外務省であれば、「天才」「帰国子女で国際感覚が豊かな者」「語学が得意な者」（大使館）「対人能力が高い者」（交渉）「勉強熱心な者」（法律）、といったような区分けがあると考えられる。自分は、どの卒の特性で勝負をするのか、どの卒なら他の訪問者を攻略できるのか、といった意識を持つと良い。

※ 例えば「天才」卒であれば、業務説明会に行く必要なし。「対人能力が高い者」卒であれば、ワークショップで活躍し、説明会で友達を沢山作る必要あり。といったように、内定に向けた戦略を立てられるようになる。

「なぜ」を意識する

国際社会は、自由・民主主義、法の支配、といった抽象的な規範・価値観で動かされる環境。「なぜその大学・ゼミ・サークルに入ったのか」「なぜ空前の売り手市場の中、敢えて国家公務員を志望したのか」といった自分自身の価値観は勿論、「21 世紀をどんな時代にしたいか・日本を世界の中でどのように位置付けたいか」といった世界観を自分なりに持つと、あらゆる質問に対応できるようになる。

(2) その省が求めていると感じた人材像, 大事にしている価値観など

外務省員行動規範より

●国民のために、国民とともに

1. 国民全体の奉仕者という原点に立ち公務員としての自覚と責任を持って行動する。
2. 開かれた外交を展開するため、広く国民の声を聞き、国民に進んで説明する。
3. 公私の別を厳格にし、常に納税者の視点に立って誠実に業務を行う。

●信頼される外務省員として

4. 常に国益を考え、歴史的視点と世界的視野に立って外交を行う。
5. 外交に携わる者として、能力を不断に磨き、使命感を持って行動する。

●活力ある外務省として

6. 構想力に富み、活力に溢れた外務省とする。
7. スピードと効率性を重視し、政策目標と優先順位を明確にする。

外務省ホームページより

1. 国民のために働きたいという強い意志と責任感を持つこと
2. 未知の課題に積極的に取り組むチャレンジ精神を有すること
3. 冷静に考え、機動的に動くことができること

謙虚さ

謙虚であるということは、成長に対する意欲・人当たりの良さ・自己認識能力など、様々なよい側面を打ち出すことに繋がる。間違っても、サークルやアルバイトといった過去の経歴・民間就活の実績程度で奢らず、未だ世の中の「世」の字も知らない学生であることを意識しながら、面接に臨みましょう。

誠実さ

常に感謝の気持ちを忘れず、一つ一つの物事に、丁寧かつ全力投球をすること。誠実さをわかりやすく示すツールとして、最低限のマナーを備える必要あり。身だしなみ（シャツが出ていないか、ベルトを忘れていないか等）、入室時のノックの回数（原則 4 回。2 回はトイレ）、エレベーターでドアを押さえる、食事の仕方等、日本の外交官として世界に送り出すに相応しい人物か、細かく見られて

第2編 官庁訪問体験記

いる可能性は大いにあり。

(3) 政策の勉強法, おすすめの本

100年後の日本を描くために

① 福澤諭吉(1875)『文明論之概略』岩波文庫. ② 藤原正彦(2005)『国家の品格』新潮新書.

国際政治の基礎

① 高坂正堯(1966)『国際政治』中公新書. ② 細谷雄一(2012)『国際秩序』中公新書.

外務省の業務

「平成31年度外務省予算」「希望の同盟」「二つの海の交わり」「骨太の骨子」

時事対策

① 日本経済新聞 電子版 ② 『ニューズウィーク日本版』CCC メディアハウス ③ 『日本の論点』文藝春秋.

業務説明を盛り上げるために

① 城山三郎(1974)『落日燃ゆ』新潮文庫. ② 司馬遼太郎(1968)『坂の上の雲』文春文庫.

(4) 集団討論, プレゼンテーションが実施された場合, テーマとコツ

傾聴力

外交とは「主張と妥協の調和」と呼ばれるように, 議論も自分勝手に意見を表明すればよい, というものではない。相手の話に耳を傾け, それを踏まえながら自説を展開し, 議論をまとめて行く姿勢が重要。

大局観

細かい政策論に偏るのではなく, そのテーマを通じ, 日本をどうしたいのか, どのような世界を描くのか, といった『国家としての理念』『全体像の把握』を重視した方がよい。政策論で現役の行政官を驚かすことは極めて難しいことを自覚しよう。

★入口面接

主に興味分野を聞くのが目的。原課面接で誰に会わせるかを決定するための参考にされる。待合室の一角にあるブースで、話を聞いてみたい分野や志望度などについて話す。入口面接を担当する人事担当者は 5 人いて、どの人に当たるかは評価と全く関係無かった。5～10 分程度。併願先との志望度合いや他省での評価、また「今日が大切な一日になる」、「今日はいつも通りやってくれば問題ない」等、クールを重ねるにつれて評価により違う言葉をかけられる。

★原課面接

基本的に入口面接で答えた関心分野に合わせて、その分野の職員から一対一で業務説明を受ける。主に職員が話す場合と、訪問者からの質問を求められる場合とがある。どの人に当たるかは評価と全く関係が無かった模様。時間の目安は 60 分程度。話の盛り上がり具合や職員の方の忙しさにより 40 分～100 分程度と幅があるが、時間の長短と評価は全く関係ない。OB 訪問に限りなく近い。

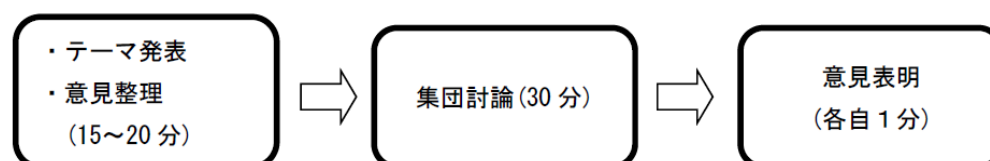
★ブース面接

なし

★人事担当者面接

一番重要なプロセス。面接官は 1 人で 20～30 分程度。面接室までの地図を手渡され、自分一人で向かい、面接開始まで部屋の外に置かれている椅子に座って待つ。帰国子女だったり留学経験があったりすると英語で質問されることもある。内容は第 1 クールと第 2 クールでやや異なるが、民間就活でも聞かれるような基本的・典型的な質問（学生時代ががんばったこと、自己 PR、志望動機）と、政策に関する質問が主。昨年度に関しては、第 1 クールでやや圧迫ぎみの面接官が多かった模様。第 4 クールでは、官房長、人事課長、企画官、精神科医を面接官とした面接がある。この官房長面接の出来次第で切られていた人もいたので非常に重要な面接であると考えられる。質問内容は真面目なものから突拍子もないものまで様々。何を聞かれても驚かずに冷静に受け答えることが大切である。

★集団討論



第 3 クールにある。与えられたテーマについて 2 つの立場に分かれる。8～9 人 1 グループで、4～5 人ごとに一つの立場を担当する。事前に控室で立場の割振りがなされ、自分の主張を整理する時間が 15～20 分ほど与えられた後に、本番の部屋に移動する。最初に一人ずつ意見表明をする時間ではなく、いきなりオープンディスカッションとなった。議論できる時間は 30 分しかなく、最後の意見表明できる機会（1 分程度。ちなみにこの時は当初の自分の主張を変えてもよい。）を含めてもそれほど多く発言する機会があるわけではない。

★出口面接

評価をはっきり言われる。安心できる度合いとリスクが分かるように評価を言われるので、自分の立ち位置が把握しやすい。所要時間は 5～10 分。周りの友人等と情報交換等を積極的に行い自分の立ち位置を常に把握しておくことが重要である。

★官庁訪問でよく聞かれる質問（TAC・W セミナー調べ）

- ・今日は何時に外務省に到着したか。
- ・大学生活で取り組んだことはなにか。特にチームで取り組んだこと。
- ・外務省の所掌業務で取り組みたいこと
- ・自分の長所と短所を一つずつあげてください。
- ・外務省の北朝鮮政策についてどう思うか。立場が異なっても、評価には関係がありません。
- ・旅行好きのようだが、印象に残った都市はどこか。
- ・志望動機は何か。
- ・民主主義についてどう思うか。
- ・権威主義の方が、より効率的な政治・外交が実現できるという主張について、どう思うか。
- ・よく人を論破してしまう癖があるのではないか。
- ・（上の質問の続き）そうした中でも、どのようにして、人を引っ張って行くのか。